

# アルヘンティーナ Argentina

社団法人 日本アルゼンチン協会 会報

No.33

2001年7月

5年ぶりの母国アルゼンチン .....	1
キアラディア大使 本国通商代表に .....	3
総会と懇親パーティー .....	4

日系人初のキャリア外交官 .....	7
ケプラチョ物語 .....	8
タンゴー多様性の魅力一 .....	9

## 5年ぶりの母国アルゼンチン

J. アルベルト・松本

留学を機に来日して11年目になるが、この春5年ぶりに里帰りをした。この5年でアルゼンチンはかなり変わった。

### 失業者の増加

メネム政権下で実施された多くの改革(民営化や規制緩和)によって、新しい事業や産業が成長している一方、多くの企業が倒産てしまい、予想以上に失業問題が悪化している。以前から、大学を卒業しても専門分野の職に就くということはかなり困難であったが、行政改革や公社の民営化でリストラにあった公務員や専門家たち、ブラジルの通貨下落で競争力を失って倒産した輸出産業経営者や中小企業の従業員たちの転職先の受け皿があまりにも不十分であったことを裏付けている。今は、自分の専門を断念してイタリアやスペイン、アメリカへの「移民」を選択しているものが増えている。

ここ数年経済の成長が順調であるスペインは、アルゼンチンに対して、子持ち夫婦の移住

を呼びかけている。条件は、一定の年数、スペインの過疎地帯に定住することであり、子供たちを地元の小学校に通わせることである。仕事も地元の役場や商工会議所が世話し、間接的には地域の少子化と高齢化対策の一環であると関係者は話している。

### サービスの向上

アルゼンチンでは、こうした状況の中で、タクシーやハイヤー(現地では、remise「レミス」と呼ぶ)、一般ホテルや飲食店(ピザレストラン、バー、牛肉バーベキューのパリージャ)等のサービスのレベル向上が目立つ。Florida通りや中心部の高級店でなくとも、どこでも一般客へのサービスがかなり良くなっていることが印象に残った。失業率が高いということもあって、職を大事にするようになったという側面もあるようだが、プライドの高いアルゼンチン人が苦手な接客業務にあれだけ力を入れているということは、ブラジルやチリに對しての対抗意識(ライバルとしての良き

パートナーを目指したいという願望で昔のようなマイナス的なものではない)と新しい世代の意識改革の成果ではないかと推測する。

## 政治と社会

制度的には、カバロ経済大臣が行ってきた財政、金融等の政策がようやく実ってきている。残念ながら、前政権と違って大統領の統治能力が問題視されており、連立もほとんど機能していないことが社会不安や治安を悪化させているという見方が強い。

## 日系人のあり方

今回、アルゼンチンとペルーで合わせて4つの大学で講演する機会があり、学生や教授陣たちと活発な意見交換を行った。また、亜国日系センター（Centro Nikkei Argentino）のような日系の組織でも意見交換を行った。ペルーでは、日系ペルー人たちの日本での適応やトラブルについて非常に懸念されていた。一方で、これだけ多くの日系人が日本に来てしまったことで本国の日系組織の運営が困難になってきていることがうかがえた。

アルゼンチンでも、これから日系組織の存続をどのようにしたらよいか、日系人たちが日系社会やアルゼンチン社会に何をどのように提供したらいいのか、日本との交流をどのように進めたらアルゼンチンでも評価されるのか、温度差はあっても議論はペルーと同じであった。

## 日本語学校

世代交代が進んでいる日系社会では、日本語学校の存在も危ぶまれており、地域によってはほとんど閉鎖状態になっている。私が勉強したエスコバール校は、以前はもっとも日本語教育に熱心だった学校であったが、今はほとんど学生がいない状態で週一日しか講義が行われていない寂しい状態であった。時代の変化、二世や三世の混血化、意識の変化等によって日本語というものに関心が薄れている。それは、国際社会での日本の存在、海外に進出している日系企業への評価、また、日系企業で

の現地雇用者のあまりにも限定された活動等が大いに影響している。多くの日系人は、日本や日本文化、日本語への想いは持ちつつも、やはり子供たちの将来を考えると英語教育か別の専門知識を優先せざるを得ないのが実情である。

## 外国人の日本語熱

しかし、その一方、非日系人の日本語受講生が少なからず増えているのである。ブエノスの日本語学校でも韓国系の二世の存在が目立っており、タンゴなど日本との文化芸能交流に関わっているアルゼンチンの一部の若者たちは日本語の集中的コースに熱中しているらしい。後者は、日本での公演の際に少しでも有利な立場で、東京などのタンゴ教室で講師として雇ってもらうために会話を中心に勉強しているのだ。目標がはっきりしているだけに、したたかであっても大いに両国の交流に役立っているようだ。

タンゴといえば、ブエノスに新たなタンゴスポットがある。外国人観光客がほとんどいない。地元の方が多いので値段もディナー込みで30ドルぐらいでエンジョイできる。San JuanとBoedo大通りの角で「Esquina Homero Manzi」というタンゴ・レストランである。メニューも豊富で、ゆっくりメインの食事を済ませてからデザートとともに22時のショーを鑑賞するのも悪くないように思えた。

## アルゼンチンと日本

アルゼンチンも多くの問題を抱えながらも変化しており、前に進んでいるような気がする。こうした新しい環境の中、日本も、長期的な目標や戦略をもって関係を築いていかなければならぬ。アルゼンチンは日本が持っていないものを数多くもっている。日露戦争や第二次世界大戦の時のように、いつも利害関係を越えて *país amigo* として応え合う関係でありたいと思うからだ。

あるべると まつもと（当協会理事、合資会社イデア・ネットワーク 代表取締役）

# キアラディア大使 本国通商代表に

駐日大使在任2年ちょっとで、突然の人事で本国の通商代表に昇格した。これまで各省ばらばらに進めていた外国との通商交渉を一元化するために新設されたポスト。初代の取り仕切り役の苦労は並大抵ではないと思われるが、本人は意欲満々である。

—日本駐在の感想は？

「両国修好100周年のいろいろな記念行事がやっと終わった時に赴任した。宴が果てたあとへ着いたようなものだった。この2年間、アルゼンチン側は大統領交代と経済状況悪化、日本側も経済がおもわしくなく、両国とも自分の足元ばかり見ている難しい時期だった」

「日本のみ

なさんに親切にしてもらったが、牛肉の対日輸出交渉で接した食料担当の役所は、生産農家の利益を尊重する少数のグループと結んでいるようだ。あれは、日本の将来のためによくないのでは。競争力を増やす方向に変化して行った方が日本のためによいと思う」

「日本とアルゼンチンは今、両国とも困難に遭っているが、困難さが違う。日本は貯蓄に支えられているのに対して、アルゼンチンは発展のための資金がなく外国に協力を求めなければならない。日本は土地に恵まれていないが、アルゼンチンには土地があり、食料があ

る。両国経済は補完関係にあるのだから協力し合いたいのだが。」

—日本で何か発見しましたか？ 「友人がたくさんできました。それから家内と2人で東京

の町をよく歩き回りました。大使として赴任するずっと前に来日した時ふらりと入って気に入ったビアホールを、ついに今回探し当てました。楽しかった。」

「温泉も気に入りました。別府温泉と伊豆の淡島温泉が美しくて印象に残っています。」

—和食のレパートリーは増えましたか？ 「もちろんです。うどんです」

—うどん？

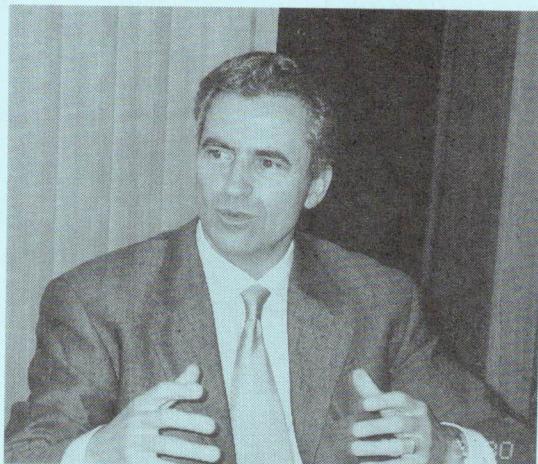
「あらたまた店ではなく、屋台みたいなところで食べるのがいいんです。上野公園とかね。」

—日本アルゼンチン協会の会員をパーティーに招いて下さいましてありがとうございます。 「こちらこそ楽しい思いをさせて頂きました。あのパーティーはこれからも続けられるように後任の大使に申し送ることにしています。」

きき手 河崎 勲

(協会理事、ダンコムジャパン代表取締役)

(後任の駐日大使は、まだ決まっていない。夏休み明けになるかもといわれる)



齊藤英四郎会長と



会員懇親パーティーで踊る

## 第45回通常総会 アルゼンチン大使館で 初めて開催

キアラディア大使のご好意で今年の総会は、初めて大使館の小講堂で開催された。斎藤会長、藤本、友国両副会長、協会理事、監事ほか会員32名(委任状50名)、来賓として外務省中南米局より清水首席事務官、渕上課長代理、アルゼンチン大使館よりフェルナンド比嘉参事官が出席された。議案は第1号から第5号まですべて原案通り承認されて終了し、引き続き3階の大公邸でのアルゼンチン大使の招宴に移った。

総会席上、第5号議案定款の一部改定について熱心に討議され採決の結果、原案通り承認された。協会役員は、篠沢国際協力銀行副総裁ほか5名の新理事を加え27名、監事2名が承認された。新陣容はつぎの通り。

### 新役員リスト (ABC順)

会長 斎藤英四郎 新日本製鉄 社友名誉会長  
副会長 藤本芳男 世界の動き社 理事長  
副会長 友国八郎 商船三井 相談役

専務理事	野村秀治	野村アソシエイツ 代表
理事	海浪憲一 林屋永吉 堀部雍夫 井尻収一 河崎 熱 風間孝晴 小林晋一郎	住友海上火災保険 常務執行役員 元 駐スペイン大使 東芝 総務部 国際関係主監 三菱商事 業務部室総括 ダンコム・ジャパン 代表取締役 元 國際協力事業団 理事 東京リサーチインターナショナル 研究理事
国井康夫 桑田芳郎 的場博子 アルベルト・松本	日本水産 代表取締役会長 日立製作所 代表取締役副社長 SADIC 日本代表	
松下 洋 中根正彦 中野恵正 西岡 稔 岡山 敬 大隈信幸 小宅庸夫 佐藤和男 篠沢恭助 高垣 佑 竹田恒治	イデア・ネットワーク代表取締役 神戸大学大学院教授 住友商事 市場業務部長 ナカノ・アソシエイト代表取締役 元 ダイビル 専務取締役 三井物産 業務部国際業務室長 日本ウルグアイ協会 会長 中部電力 顧問 商船三井 副社長 国際協力銀行副総裁 東京三井銀行 会長 伊藤忠マネジメントコンサルティング 社長 ジャパン・アート・ルネッサンス 協会 理事長	
土屋桃子	東京三井銀行 中南米部長 安田直弘 代表取締役	
監事	長松義人 安田直弘	

## 初めての大公邸訪問 三津谷 亮子

日本アルゼンチン協会のスペイン語初級クラスで勉強している縁で、この日他の生徒さんと一緒にご招待を受けた。

大使公邸は元麻布の閑静な住宅街の中にある。パーティ当日は、折りしも梅雨のはしりとも言えるような強い雨に見舞われたが、大使館や協会の受付の方たちの笑顔とスペイン語の挨拶が訪れる人を暖かく迎えてくれた。

大使公邸など生まれて初めて訪れる私は、やや緊張気味だったが、明るい雰囲気にすぐ溶け込んでいった。パーティが行われた3階のレセプションルームは、アンティーク家具とグランドピアノが配置されたとても落ち着いたインテリアで、家具の棚に飾られた日本の皇



室や歴代アルゼンチン大使の方々の写真が、アルゼンチンと日本の外交の歴史を静かに物語っていた。雨が降っていなければベランダからの東京タワーの夜景もきれいだよ、と何度も訪れている人に教えられた。

ワインやアルゼンチン代表料理と言われるエンパナーダ(スパイシーな挽肉や野菜を挟んだ

大きな餃子のようなもの)とチョリ・パン(チョリソーソーセージをパンに挟んだもの)が一斉に回りパーティが始まった。初めて味わうスパイシーなアルゼンチン料理に舌鼓を打ちつつ、大使・協会会长・外務省中南米局長のスピーチに耳を傾けた。それぞれスペイン語・日本語の2か国語で通訳される初めての体験に、興奮気味になりながら、未だ見ぬアルゼンチンという国への思いを馳せた。

スピーチを聞いて、日本アルゼンチン協会が75年もの歴史があってアルゼンチン・日本の民間外交に深く関わってきたことを初めて知った。

Chamamé(アルゼンチンの民族音楽)の演奏。プロのアコーデオン奏者として活躍され

ている同じスペイン語クラスの牧田ゆきさんのグループによる音楽がパーティを盛り上げた。

自分のスペイン語はまだまだあるが、おいしいお料理をいただき色々な話をうかがって、アルゼンチンという国に対する認識も深まり、職場を半日休暇を取って参加した価値があったと密かな充実感に浸ったひと時だった。ご招待に感謝申しあげます。

(みつや りょうこ 東京三菱銀行勤務 協会スペイン語講座受講)

♪ パーティーでチャマメの演奏をしてくれた  
♪ 牧田ゆきさんのホームページです。  
♪ <http://home.att.ne.jp/delta/yukimakita>

## 校庭に響く希望のサンバ

山下 美里

茨城県猿島郡境町立長田小学校で6月2日(土)、恒例の「第13回アルゼンチン・長田友好記念日の集い」が行われた。アルゼンチン大使館からはフェルナンド・比嘉参事官ご夫妻が、当協会からは野村専務理事と大橋雄一会員、宮下美和子会員と私が出席した。

アルゼンチンと同校との交流の歴史は、江戸時代のペリーの来航にまで遡る。黒船にモンテネグロというアルゼンチン人が乗っていた。一行をアテンドした侍が当地の出身だった。詳細は省くが、彼らの孫同士(モンテネグロ公使と野本作兵衛氏)が昭和初期に育んだ友情の伝統が今に息づいている。

この小学生たち只者ではない。1998年にメヌム大統領(当時)が来日した際、帝国ホテルで行われたレセプションに駆けつけ、「カミニー



比嘉参事官夫妻と子供たち

ト」を原語で披露し、大統領を感激させた。

今年は、「サンバ・デ・ミ・エスペランサ」(私の希望のサンバ)に挑戦した。結果は大成功。アルゼンチンのサンバ(Zamba)はブラジルのサンバ(Samba)とは違う独特のリズムを持っている。日本人がきちんと歌おうとすれば、ことは容易ではない。ところが驚くべきことに、ほぼ完璧なスペイン語の発音だった。野村専務理事の「もう1度!」のリクエストに答えた2回目は圧巻。実際に堂々たる歌いっぷりであった。

「私の希望のサンバよ。時として花開くこともなく息絶えてしまう魂の夢」で始まる歌詞は、素朴で味わい深い。多くのアルゼンチン人が愛して止まないものだ。教科書にも載っている。

この歌のように素朴で届託のない子どもたちの笑顔と、それをサポートする学校関係者や父母の方々の暖かいお心遣いに触れ、とても清々しい気持ちになった土曜日だった。

(やました みさと 協会セクレタリア)

## ドキュメント

# 最新アルゼンチン情勢

～政治・経済の主な出来事～  
小林晋一郎

綱渡りのアルゼンチン経済。カバロ経済大臣の就任で増税主体の内需抑制策から競争力強化策に軸足を移した。対外債務支払い懸念の高まりの中で、債務交換に成功、当面の外貨資金繰りは目処がついた。

### 「アルゼンチン国債と米国債とのスプレッド拡大」

3月以降の政治不安、対外債務支払いの懸念から、アルゼンチン政府発行の外貨債と米国債利回りとの差（スプレッド）が拡大、4月には一時1300BP（100BPが1%）に達した。その後、債務交換の成功を受け、縮小したが6月中旬で1100BPとメキシコの300BP台、ブラジルの800BP台に比して依然としてスプレッドが大きい。

### 「経済成長」

2001年第1四半期の経済成長率は前年同期比でマイナス2.1%となり、1998年第3四半期以来2000年第1四半期と第2四半期を除き、マイナス成長が続いている。需要項目別に見ると個人消費が前年比マイナス1.8%と3期連続でマイナスとなった他、投資も前年比マイナス9.2%と大幅な落ち込みとなった。

### 「債務交換」

6月、アルゼンチン政府既発債650億ドルを対象として新発債への交換入札を実施、うち295億ドルの交換が決定した。これにより、今後5年間の政府債務支払い負担が合計160億4700万ドル軽減され、2006年以降に繰り延べられた。

### 「金融取引税の導入」

政府は税収強化のため0.6%を上限とする金融取引税を4月より導入した。当座預金の入金および引き落としの際に課税され、税率は当初、0.25%でスタートしたがその後5月に0.4%に引き上げられた。

### 「競争力強化策」

3月、政府は競争力強化策を発表、その内容は、

資本財の輸入関税をゼロとすること、消費財の輸入関税を35%まで引き上げること、民営化の促進、公務員の削減、などでこれにより、企業の生産コスト20%削減を目指している。

### 「兌換法の改正」

4月17日、カバロ経済大臣はペソを米ドルに1対1で交換を保証している兌換法の改正案を国会に上程した。改正の内容は、ペソの米ドルへの交換相場を米ドルとユーロの平均相場とすること、実施時期は1米ドルの対ユーロ相場が1ユーロとなる時、である。現状のユーロ相場の状況から実施時期はかなり先になると見られている。法案は6月、国会を通過した。

### 「貿易限定の為替相場制」

6月15日、原油を除く輸出入取引に使用する為替相場を米ドルとユーロの通貨バスケットに対するレートを適用すると発表した。6月15日時点で、試算すると1米ドル=1.08ペソとなり、輸出促進に寄与することが期待される。同時に輸入業者の負担増を相殺すべく消費財の輸入関税を35%から27%へ引き下げた。政府はこの措置は輸出促進策であって2重相場制でないとしている。ユーロの対米ドル相場から算出した収斂係数を政府が毎日公表し、輸出入業者は兌換法の定める1米ドル=1ペソとの差額（輸出入金額に収斂係数を乗じた金額）を為替決済とは別途に決済する。

### 「アルゼンチン航空破綻」

民営化されたアルゼンチン航空は債務負担、労働争議などから経営破綻し6月、和議を申請した。

### 「メネム前大統領の逮捕」

メネム前大統領は旧ユーゴ紛争で国連による武器禁輸下にあったクロアチアおよびペルーとの国境紛争を続けていたエクアドルへの武器不正輸出に関与していた疑いで自宅逮捕された。メネム前大統領はチリの人気テレビキャスターである元ミスユニバースのセシリア・ボロッコさんと盛大な結婚式を挙げたが出国禁止で新婚旅行は延期された。

（こばやし しんいちろう、当協会理事、東京リサーチ研究理事）

# インタビュー この人<8>

## 初めての日系キャリア外交官

### ～ア日の架け橋をめざす～ フェルナンド ヒガ(比嘉)さん



さる4月、在日アルゼンチン大使館に日系人のキャリア外交官が参事官として着任した。超難関といわれるアルゼンチン国立外交官大学院(ISEN)を卒業して外務省へ入省した初めての日系人。

1980年に入省してコロンビア、ブルガリア公館、イタリアに派遣留学、中国のあと本省に3年勤務のあと韓国をへて日本にきました。

あっという間に20年が経過しました。家族ともども大変喜んでいます。というのは妻スサーナと知り合ったのは、ブエノスアイレスの日本語学校だったという経緯でもお分かりでしょう。アルゼンチンと日本の架け橋として、すこしでもお役にたてばと願っています。

1952年サルタ生まれの3世。祖父の代にサルタに移住。2世の父親は沖縄、名護市に帰国中に従軍、南方戦線で日本のために戦った。戦後母親とともにサルタへ。フェルナンド少年は地元の高校のあと口サリオ大学で政治学部と国際関係学部を専攻。卒業後、教授の強い推薦で、ISEN(*Instituto del Servicio Exterior de la Nacion*)大学院を受験。

大學のあとブエノスアイレスでの受験準備は本当に死にももの狂いでした。外交官キャリアを養成する大学院への受験に、日系人はハン

ディがあるとの噂がありますが、全くありません。それは厳しい試験ですが差別は皆無です。入省後の扱いも公平です。むしろ日本が世界第2位の経済大国になり、尊敬をうけていることが幸しているかも知れません。

アルゼンチンは欧州各国とりわけ地中海国家の政治、経済、文化の影響を強く受けている。20世紀に入り米国との関係が深まった。したがってアルゼンチンの交流はまず第一に欧州、ついで米国となり、日本はその圏外に位置づけられている。

とはいえる多くのアルゼンチン人は日本人を尊敬し、好意を抱いています。その理由の一つに日本人の国民性を挙げる人がいます。前大戦で日本は米国に壊滅的な打撃を蒙りました。そのうえ核兵器による徹底した破壊も受けました。日本人は米国に憎しみや怒りを抱くのは当然です。しかし、戦後の日本人は、その憎悪を平和という理念に切り替えました。これは驚くべきことであり、尊敬に値する行為だと評価しています。

スサーナ夫人は、イタリア系アルヘンティーナ。レオナルド・ダ・ヴィンチの親戚の子孫でフィレンツェがルーツ。数ヵ国語をあやつり日本語も主人より上手。令嬢アドリアーナ春子さんは、聖心女子高校に在学中。各種のスポーツに秀でた参事官の趣味は、詩の鑑賞。

アルゼンチンの詩は素晴らしいものが沢山あります。有名なホセ・エルナンデス、レオポルド・ルゴーネス、日本でも著名なルイス・ボルヘスなど多くの詩人がいます。私が好きな詩人はルーベン・ダリオです。欧州大陸国家の影響を受けているアルゼンチンの外交官は歴史家であり、詩人であることが求められます。日本の詩も学びたいとスサーナと話し合っています。

(聞きて 野村 秀治 専務理事)

# ケブラチヨ物語 ～日本で公園ベンチに～

河崎 勲



遠くから眺めるパンパのエスタンシアは放牧の牛が気ままにどこにでも動いて行くように見える。だが、実はそうではない。牛は注意深くコントロールされている。そのために牧場の周りには間隔をおいて柵の木が打ち込んでありこれに鉄線が張られている。風雨にさらされて何年ももつように堅い木を使う。それがケブラチヨである。比重が1.27、水に入れると容赦なく沈んで行く重い木だ。

アルゼンチンの鉄道の枕木はもちろんこの木である。ブエノスアイレス・サンテルモの「クチージョ」という名のレストランは、土台から柱から壁まで総ケブラチヨ作りである。建ててから200年経つという。びくともしていない。この木はまた薪としては最高品だ。火はつきにくいが、いったん燃えるとなかなか消えないからだ。燃えたあとの炭がこれまたじっくりと安定した熱を出すからアサードの肉はこれで焼いたのが一番うまい。

ケブラチヨは、アルゼンチン北部、パラグアイ南部、ブラジル南西部の熱帯地域に自生する。大きいものは高さ30メートルに達し、幹の直径は1メートル半にもなる。あまりにも堅いので、*Quebrar Hacha*（斧を壊す）ケブラチヨと呼ばれるようになった。

自生地がブエノスアイレスからもガウチヨのパンパからも遠く離れているためか、ケブラ

チヨはオンブーと違ってアルゼンチン文学には登場してこない。だが、「大草原の呼び声」の著者江藤正喜さんによると、パンパの吟遊詩人が歌ったパジャーダの中に、corazon de quebracho（硬く冷たい心）と嘆く失恋の歌があり、美しいセイボを邪魔する堅いケブラチヨの奴めという歌があるという。現代のフォルクローレにも、まるでケブラチヨみたいに堅くて頑固もののチャコ男よなどという具合に登場する。「身持ちの悪い女がいて困り果てた挙句、ケブラチヨの幹に縛りつけた。女の顔は樹液でかぶれて醜く腫れ上がってしまった。女がさめざめと泣き悔い改めることを誓ったので森の神は許し、女は元の美しい顔に戻ることができた」これはウルシ科のこの木を恐れていたパラグアイの先住民グアラニーの説話である。

近代になってケブラチヨは、皮なめしのタンニン採取のためと、パンパの農牧産品を運び出す鉄道の枕木用材としてヨーロッパ人によって乱伐された。成長の遅いケブラチヨは伐採に追いつかず今日では希少資源になってしまった。

日本では3か所でケブラチヨを見ることができる。埼玉県の新都心「さいたま」の駅前公園、明石城公園の渡り廊下、下呂温泉の民間保養施設入り口の舗道がそうである。さいたまのケブラチヨは、200本のけやきが茂るゆったりとした広場で34基のベンチになって鎮座している。一辺がおとなが寝そべることができるほど長さの正方形のベンチの中央部が厚いガラス張りになっている。あの堅い木でよくもこんなに巧みに作ったものだ。

圧巻は夜である。ガラス張りの中に灯がともる。横側の数本の桟の細い隙間から灯りが洩れる。四角い提灯である。静かに枝を広げる夜のけやきの木立の中にこの木製の提灯がそちこちにほんのりと灯をともしているさまは京都の風情である。できてから1年たつが寸分の狂いがない。それはそうだ。炎熱のチャコで育ち、200年の風雨に耐える木なのだ。

（写真 さいたまのケブラチヨ ベンチ）

# タンゴ —多様性の魅力—

## 原田 裕子

### <搖籃の周辺>

頃は19世紀末、場末の街角で男同士が組んで踊る所からタンゴは始まって行つたと云われています。けれどもそこが場末であっても、一般に伝えられているスラム街（貧民街）の中ではなかった理由に、初期の楽器ですら、ピアノを含め、費用のかかる楽器が数々使用されていたと云う事実が挙げられます。（後にバンドネオンが入る）

歌詞に関しましては、現在のタンゴの歌詞に見られますような文学的、詩的表現には程遠く、日常茶飯事の出来事を陳腐な言葉で表現しているものが多いのです。

一方、キューバ生まれのハバネラのリズムがタンゴの音楽に影響を与えたと聞きますが、私のキューバで見たハバネラの踊りのステージ、又、アルゼンチンの振付師による「タンゴの歴史」を綴ったステージ上で見たハバネラの踊りは、いずれも韓国のフォーマルな衣装に似た衣装をまとい。女性たちのみで、ゆるやかにエレガントに踊られていて、その踊りにおけるタンゴとの関連は未だ私には分かっておりません。

### <アルゼンチン人の気質を観る>

誤解を恐れずに云わせて貰えば、ラテン圏男性のよく使う「男らしさ」とは、それぞれの身体の持つ表情（身にまとうものを含めた）に集



原田 裕子さん

約されていると思います。財産とか地位とか云うものは、彼らの思う恰好良さとは又、別の次元のようです。同じラテン圏でも、お国柄によって恰好良さの基準は少しづつ変わりますが、アルゼンチン人は少し硬い。根本的にはラテンアメリカには男性優位の思想があり、（ファン・ダリエンソ楽団はタンゴは男性のものと云い、最後迄、女性歌手をステージにのせなかった…）、一方、女性は全く同調する気が無いから、男女間の物事はよく壊れます。

男女間に限らず、ジェラシー、お金、微妙な感情のずれ、こうしたものは全て人間関係の壊れる原因となるのですが、彼らにとって、壊れることそのものが恰好悪いことにはならない様です。そうした壊れやすいものをやんわりと真綿で包むような言葉として「アミーゴ」（友よ）なる言葉が存在している様に思います。

### <芸人気質を観る>

タンゴのステージに出演するアーティストの収入ランクは、基本的に演奏家が一番です。二番目に歌手、三番目にダンサーとなります（各パートで特別な人は考慮されるとして）。けれどもステージから客席にアピールするのは逆にダンサーが一番となるのです。

概ね、演奏者とダンサーは犬猿の仲です。時に不満が爆発した時の演奏家達の前に立つはめになつた踊り手は、完全に不利なものとなるのです。こうした中で、それぞれのアーティスト達は、道は自分で切り開けと云わんばかりに、決して自分の場所を他人に明け渡したりしないようです。どんなに年配になつてもです。

自国で毎夜ステージを終えて帰途につく彼らの風情には心惹かれるものがあります。どの人もつましい一人の芸人の姿をしているのです。

他の国の人々の間には彼らのタンゴをそのまま真似よう、そのものに近づこうと試みる人々がいますが、その方法は大方は味気ない結果を生んでしまいます。タンゴはそれを料理するサイドの他國の人間に、選ぶ事の自由さを教えると共に、いかに手腕をふるい料理するかを試し、そそのかしているように見えるのです。そうした幾百千のアルゼンチン人のまなざしを背後に感じながら、ふと気がつくとその味は、彼らの料理するタンゴに、微妙に還元されていることもあるのです。

#### <ブエノスアイレスの持つ意味>

ブエノスアイレス生まれの人たちの中には、その土地で死を迎えることを望む以上に、他国にいて、いつかそこに帰りたいと願う、切ない望郷の思いをことさらにいとおしみたがるのだ、と云う複雑な云い回しを聞いたことがあります。

ここで偉大な、アルゼンチンの詩人で作家のホルヘ・ルイス・ボルヘスの言葉を借りたいと思います。「ブエノスアイレスの夕暮れと夜が無かったら、タンゴは生まれないだろうし。」「この幸運に恵まれた音楽は卑小なものだとはいえ世界にしっかりと根をおろしているのだと云えよう。」

ある時私は、これがあのブエノスアイレスの夕暮れだと実感した瞬間があります。その日一日パンパ（草原）に遊び、夕方ブエノスアイレスに戻ってバスを降り立った時でした。その時ブエノスアイレスと云う街が、1つのかたまりとなって薄紫色に煙る夕暮れの空気の中に、何かすっぽりと包み込まれてしまった様に見えたのです。突然1つの思いが体内を走りました。「このままで良い。こうして生きてさえいれば。」心からそう思えた不思議な至福の一瞬でした。

100年もの間、飽きもせずに、搖籃の時期の同じテーマを、人を変え場所を変えて演じ続

け、なお悠然と生き延びるタンゴの運の強さーその秘密は、どうやらブエノスアイレスのオーラの中に密かに隠されているように私も思えて來るのです。

（はらだゆうこ、協会員、ハラダ ダンスグループ主宰）

この原稿は、原田さんが日本社交舞踏教師協会の会報「NATD2000」（2000年発行）に寄稿されたものを、ご本人と同協会の了承を得て転載させて頂きました。（編集部）

## 本邦最古のアルゼンチン・タンゴ復刻盤CDの抽選

日比谷マトバ真珠店の50周年記念パーティで披露された珍しいCDがタンゴ通の間で話題を呼んでいる。昭和15（1940）年にわが国で初めて発売されたタンゴのレコードが半世紀以上たったいま、CDに復刻されたもの。ラテンアメリカ音楽著作権協会代表で当協会の理事である的場博子社長から、このCD5セット（各12曲）の寄贈をうけたので抽選します。

希望者は、はがきに名前、住所、電話FAX、会員資格（法人、個人、賛助の別）を書いて協会あて送って下さい。はがき以外は受け付け不可。抽選日8月30日、発送をもって発表に代えます。

## 「カンデラリア」閉店

当協会会員の高野太郎さんの、東京・六本木の「カンデラリア」が6月15日（金）27年の歴史に幕を閉じた。高野さんの健康上の理由だという。最終日、店に彼が姿を見せるることはなかった。アルゼンチンから演奏家を招聘し、生でタンゴやフォルクローレを楽しめる店として、貴重な存在だった。療養に専念され、復活されることを心から願っている。

# かねまつじょうじ 加年松城二さんを悼む

クリッとした大きな目。ポマードでよく手入れされた黒い髪。加年松さんはいつも颯爽としていた。戸籍名は城二だが、城至とも名乗っていた。父親がアメリカ人、母親が日本人のハーフだったことを皆さんご存知だろうか。父親は戦前のハリウッドのカメラマン。やめてUPIの報道カメラマンとして来日し帰化した。

協会会報28号の「タンゴはいつ日本にきたか」は、加年松さんに話をきいてまとめた。酒を飲まない加年松さんは、品川の自宅で福島穆さんと私に饅頭をすすめながら、“ラ・モローチャ”の初版の楽譜が1906年、明治39年に世界で初めて日本に運ばれてきた経緯、それがタンゴが日本にきた初めてであると思われることを、丹念に集めたアルゼンチン側と日本側の資料を見せながら熱っぽく説明してくれた。

ポーラの銀座店の責任者として、店をタンゴバンド公演の場として提供してタンゴ普及に貢献した。随分早い段階でピアソラがきた。「日本の公演ではケンパルシータをやらなきゃ」

と誰かが言った。

“Cumparsita, Que?”と前衛派のピアソラが澄ました顔で横を向いたとか面白い話を沢山聞かせて頂いた。

以前から、タンゴダンスの普及に熱心だった。音楽乃友社の「やさしいアルゼンチントンタンゴの踊り



1976年当時

方」に書いた加年松さんのタンゴの歴史は素晴らしいガイドブックである。

長い間、1年の半分をブエノスアイレスで、半分を東京で暮らしておられたが、3月ブエノス滞在中に突然亡くなられた。74歳だった。タンゴ歌手や国立歴史博物館長ら、アルゼンチンの大勢の友人に見守られてチャカリタ墓地に埋葬された。ご冥福を祈ります。(河崎 熱)

## 寄贈図書にお礼

当協会が去年暮れ、ブエノスアイレスの秋篠宮文庫に送った図書5800冊は各地の日本語学校にも配られた。以下はそれに対する礼状である。

貴会のあたたかなるご厚意により贈ってくださった書籍を日亜学院より受け取りました。誠にありがとうございます。生徒たちも大変喜んでおります。教師一同、貴会のご厚意を無駄にしないよう有意義に使いたいと思います。

ブルサコ日本語学園

維持会長 佐々木アレハンドロ

園長 安田 くに子

この度は日亜学院を通して当サルミエント日本語学校へも、絵本、童話、図鑑類、読み物等86冊を寄贈していただきました。どうもありがとうございました。

当サルミエント校は、首都ブエノスアイレスから30km程北西の方にあり、生徒数約80名、教師4名のアルゼンチンでは中規模の日本語学校です。当校には、小さな図書館があり、1000冊足らずの図書がありますが、古くていたんだ本も多く、この度の図書の寄贈は、日本語学校関係者一同大変喜んでおります。

日本の各方面の方々の善意、ご協力に心より御礼申しあげます。

サルミエント日本語学校

金城 タカミ

# 催し物

【会員】は当協会員特別割引

## ◆バスケットボールヤングメン 世界選手権

予選ラウンド「日本vsアルゼンチン」  
8月3日(金) 18:10 さいたまスーパーアリーナ  
1,000円~3,000円  
問合せ：(財)日本バスケットボール協会  
TEL03-3481-2347

## ◆第42回コスキンフェスティバル 日本代表審査会

優勝者は本国の「コスキンフェスティバル」に出場  
8月4日(土) 19:00 福島県川俣町中央公民館  
問合せ：TEL:024-565-2434

## ◆ノルベルト・ラモス・タンゴ楽団・ コンサート

9月11日より10月31日まで全国各地を公演  
問合せ：民音(TEL:03-5362-3440)

## ◆タンゴ・ヴォルヴィエンド日本公演

9月19・20日 アートピアホール(名古屋)  
S:6000円 A:5000円  
9月21・22日 東美濃ふれあいセンター  
(岐阜・中津川)  
S:5500円 A:4500円 B:3500円  
9月30日 草月ホール(東京・赤坂)  
S:6000円 A:5000円  
10月1日 大阪(梅田)シアタードラマシティー  
【会員は会報33号持参で500円割引】  
問合せ：古瀬さん(TEL:0573-65-2152)

## ◆タンゴ・ヴォルヴィエンド岡山公演

9月24日(祭) 15:00 岡山市民文化ホール  
指定席:5000円 自由席前売:4500円  
自由席当日:5000円  
【会員は500円割引】問合せ：田原さん  
(TEL:086-227-3550)

◆イングリット・フリッター  
(ショパンコンクール2位のアルゼンチン人ピアニスト)  
10月1日(月) 19:00 東京・紀尾井ホール  
指定席:5000円 プラチナ券10000円  
問合せ：梶本音楽事務所(03-3289-9999)

## ◆フォーエバー・タンゴ

10月2日(火)~10月7日(日)  
青山劇場(東京)  
S:10,500円 A:8,400円  
問合せ：東京音協(TEL:03-3201-8116)

## ◆ホセ・クーラ テノールリサイタル

ポスト3大テノールの一一番手(アルゼンチン人)によるリサイタル  
10月28日 19:00  
サントリーホール(東京・赤坂)  
S:30000円 A:25000円 B:20000円  
C,Dは売り切れ  
問合せ：日本アーティストチケットセンター  
(TEL:03-3944-9999)

### 新会報編集委員

新年度の会報編集委員を次の方々にお願いしました。

編集長 河崎勲  
編集委員 藤本芳男 福島穆 小林晋一郎  
アルベルト松本 宮下美和子  
中野恵正 西岡稔 野村秀治  
薄井康夫 安田直弘 山下美里  
横山稔

会報についてのご意見、ご提案をどの編集委員にでも結構です、お寄せ下さい。

また、会員のみなさまの投稿をお待ちしております。

### 日本アルゼンチン協会会報33号 2001年7月20日発行

発行人 野村秀治  
編集長 河崎勲  
発行所 社団法人 日本アルゼンチン協会  
105-0004 東京都港区新橋1-17-1  
新幸ビル  
電話：03-3501-4684  
FAX：03-3595-3932  
Eメール：argentina@nifty.com  
印刷所 株式会社 イデア・インスティテュート